

光といのち

第129号

—春彼岸—

2021年3月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp

URL <http://syozenji.or.jp/>

住職 釋孝昌（井上孝昌）

わこく きやうしゆ
和国の教主
しやうとく おう
聖徳皇
こうだい おんどく
廣大恩徳
しや 謝しがたし
親鸞聖人

春彼岸法要 兼 聖徳太子千四百回忌法要

日時 三月二十日（土）
十時～十一時半

お勤め 正信偈などを同朋奉讃で
※和讃は「皇太子聖徳奉讃」より六首
持ち物 マスク 念珠 門徒章

お参りについて

三密を避けるため、本堂内参
詣者は30名以内とします。

また本堂内の実況をYouTube
ubeでみな様のメールアドレス
に限定配信します。

メールアドレスをお知らせく
ださいでない方は、勝善寺メ
ールアドレス宛てに、氏名を記
しメールを送信してください。

なお、春彼岸に例年護持金を
納めている方は、当日は本堂で
受け付けます。来寺できない場
合は郵送してください。

本年は、聖徳太子千四百回忌
の年です。二月二十二日が祥月
命日ですが、当寺では上記にお
勤めします。

聖徳太子については、十人の
訴えを同時に聴けるほどの聡明
な方、推古天皇の摂政となり憲
法十七条を制定し遣隋使を派遣
した政治家、法隆寺を建立し仏
教に詳しい文化人、大工さんな
ど職人の信仰を集めた方、ご年
配の方は一万円札の肖像であつ
たこともご存じでしょう。

私は高校生の頃に梅原猛の『隠
された十字架』を読み、崇る聖
徳太子に畏れを感じつつ法隆寺
の謎に胸躍らせたことを思いだ
します。

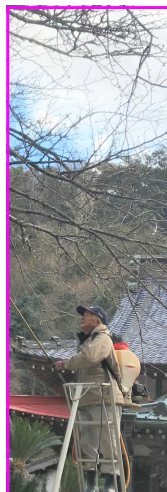


その聖徳太子
の法要をなぜお
勤めするのか？

それは、在家生活のまま仏道
を歩まれた聖徳太子が御手本と
なり、親鸞聖人は肉食妻帯し
浄土真宗という新たな仏道を歩
め、私たちもその道を歩んでい
るからです。

法要を勤め、聖徳太子の恩徳
を讃嘆いたしましょう。

境内整備



◎一月十九日（火）、川名喜昭氏
は、境内の木々に苔が付着して
いるのを見かね、石灰硫黄合剤
で消毒してくださいました。



◎上の桜は「数珠掛
け桜」と呼ばれてい
ます。新潟県阿賀野
市小島梅護寺に原木
があります。親鸞聖
人が、数珠を桜の枝
にかけ仏法を説いたところ、毎
年数珠のように花がつながり垂
れ下がって咲くようになったそ
うです。

鋸南町下佐久間の重田恒久氏
はこの伝承を知り、数年前から
この桜を勝善寺に咲かせようと

思い立ち接ぎ木し、それが苗木
に育ちました。

その二本と垂れ桜の苗木一本
をいただき、二月二十五日（木）、
川名喜昭氏が育てたツツジ苗木
80余本と田村晋一氏からいただ
いた河津桜15本とともに、役員
と有志で境内に植えました。

（氏名は写真の右から、敬称は略）

川名喜昭 足達崇 正木道雄
三堀清 田中嘉一 渡邊秀子
田中昭一 川名ふじ子
ありがとうございました。

やがて花を咲かせ、お参りの
方々が喜ぶ姿を想いながら、二
時間ほどの作業を終えました。



◎繁茂しすぎたイチヨウの枝を
伐採する計画です。

『和国の教主 親鸞聖人における聖

徳太子観』という書籍があります。

二〇一五年十月十七・十八日石川県能美市 稱仏寺鍋谷道場で開かれた暁宇会主催「秋の法座」での池田勇諦先生ご講述がその内容です。

鍋谷道場は稱仏寺という寺号がありますが、造りは民家です。谷田家によつてこの間法道場は連綿と続いてきましたが、谷田友作氏（谷田 暁峯師の御尊父）が、「たとえ谷田家が絶えたとしても道場は相続されていくように」と願い、手次ぎ寺である稱仏寺へ家屋を丸ごと寄進されたのだそうです。

その熱意が谷田暁峯師還浄後も相続され、この時も全国各地から八十五名の法友が集い、実は百々海真師に誘われ私もその一人でありました。

以下は、暁宇会の編集したその書籍の抜粋です。

親鸞聖人における聖徳太子観

「親鸞聖人における聖徳太子観」と一言で申しましても、これは大変な問題でありまして、詳しく申し上げますと時間がどれほどあっても足りないような大きなテーマです。ご承知のように、親鸞聖人は聖徳太子

のご恩徳を深く仰いでおられました。実は日本仏教の歴史の中で、親鸞聖人ほど沢山の聖徳太子和讃を作られた方は他にいません。日頃親しんでいるところでは、『正像末和讃』に収められている「皇太子聖徳奉讃」（『真宗聖典』五〇七頁）が十一首あります。この十一首の和讃は、親鸞聖人の最晩年となる八十六歳以降の撰述といわれています。それに先立って制作された七十五首和讃「皇太子聖徳奉讃」（『真宗聖典』には掲載されていない。身近には名畑應順校注『親鸞和讃集』二一九頁・岩波文庫）は、親鸞聖人八十三歳の時のご制作です。そして、百十四首和讃「大日本国粟散王聖徳太子奉讃」（前掲書二四三頁）が八十五歳の時のご制作です。十一首、七十五首、百十四首を合計しますと、二百首という膨大な数字になるのですね。

親鸞聖人は『浄土和讃』、『高僧和讃』、『正像末和讃』の三帖の和讃をご制作ですが、三帖の和讃の合計は三百五十三首です。それだけたくさんの和讃を遺され、さらに太子和讃が二百首ありますから、親鸞聖人というお方は五百首を超える和讃を遺されたのでした。とりわけ聖徳太子のご讃嘆として二百首の和讃を作って捧げておられることから、親鸞聖人の聖徳太子に対する深い思い入れがうかがわれます。

二百首に上る太子和讃の中で『正像末和讃』に収められている十一首は、日頃から

繰り読みしてお勤めされていると思います。この十一首は『真宗大谷派勤行集（赤本）』にも収められていますから、皆さん方も親しんでおられましょう。この十一首和讃を通読いたしますと、そこに親鸞聖人の聖徳太子に対する恩徳の要点を二点指摘できようかと思えます。

「パパのごとく」「ママのごとく」

その一つは、聖徳太子を「父のごとくに」「母のごとくに」（「皇太子聖徳奉讃」「真宗聖典」五〇八頁）と仰いでおられることです。同様の表現が十一首和讃の中に繰り返しみられます。その一つには「多多のごとくにそいたまい 阿摩のごとくにおわします」（『真宗聖典』五〇七頁）とおっしゃっています。この「多多」とか「阿摩」というのは、古代インドの言葉、いわゆる梵語（サンスクリット語）です。父親のことを「ターター」、母親のことを「アンマー」というのです。英語で言いかえれば、「ターター」は「パパ」、「アンマー」は「ママ」ですね。ですから英語で言えば、聖徳太子を「パパのごとく」、「ママのごとく」と仰がれるほどに敬慕っておられたことが知られますね。親鸞聖人が聖徳太子に対して、それほどの恩徳を感じられていたのは何故かということは、よくよくうかがわ

なければならぬ大切なテーマだと思っております。

和国の教主

もう一つは、「和国の教主聖徳天皇（『真宗聖典』五〇八頁）ということなのです。「日本の国のお釈迦様」といわれるのです。聖徳太子を「日本の国のお釈迦様」とまで敬慕している方は、日本仏教の歴史では親鸞聖人以外にはいません。「和国の教主」とは、際立ったお言葉です。つまり、日本の仏教は聖徳太子から始まっているのだ。聖徳太子いささずば、今日我々は本願念仏の仏法にお会いすることはできなかったのだ。

そういう深い恩徳を親鸞聖人が表現しておられるということががわれます。

親世音菩薩の発遣

親鸞聖人は聖徳太子の上にその恩徳を深く感ぜられた。ということは、切り詰めていえば親鸞聖人の将来を決定づけた法然上人との出会いへ導いたのは、六角堂の親世音菩薩だったということですね。六角堂に百日参籠されて九十五日目の暁に親世音菩薩の夢告を蒙られた。当時の受けとめでは、観音様は聖徳太子のご本地でし

た。だから、観音様といえば聖徳太子、聖徳太子といえれば観音様と深く信仰されていた。そういう時代状況なのですね。ですから、親鸞聖人が六角堂に参籠なさって親世音菩薩の夢告を受けられたということは、とりもなおさず聖徳太子の夢告を蒙られたということに他ならなかった。結果から申せば「法然上人をたずねて行け」という、いわば発遣、おすすめが六角堂の夢告の意味するところではなかったかと私は了解しております。（略）

親鸞聖人は法然上人をたずねられたといいますが、比叡山を下りて法然上人のもとにサッと行ってバツと目が開いてご門下になられたという話じゃないのですよ。重い足を引かずって山を下りられた。当時の常識からいえば、比叡の山で仏道修行に打込むのが常道です。その比叡の山を捨てる、下りるといふことは、敗者です。その時の親鸞聖人は、まさに敗北者でなかったか。法然上人は、男であろうと女であろうと、どういう職業の人にも、また若かろうと年寄りだろろうとそんなことには一切関係なく、「ただ念仏申せ」という教えだったわけですよ。二十年もの間、比叡の山で過ごされた親鸞聖人が山を下りられた。けれども、飛びつくように法然上人に遇われたのではありません。そこに逡巡があったのですね。「法然上人をたずねるべきか。比叡の山へ戻って、自らを励まして修行を

続けるべきか」。親鸞聖人は揺れ動いた。「比叡山に留まるべきか。吉水へ入るべきか」、「法然上人の教えは、破戒の教えではないのか、もしそうならば随うわけにはいかないだろう」。この逡巡ですわ。皆さん方も、模様は違えどもそういうご経験はございませんか。本気になつて求めていると、そういう経験が出てくるのです。サッと、というようなものではない。「どうしようか、たずねようか、やめておこうか・・・」。そこで「吉水にたずねて行け、法然上人の教えにしたがえ」と親鸞聖人に決断せしめたのは、六角堂の夢告ではなかったのかと私には思われてなりません。

聖徳太子は、「二つに曰わく、篤く三宝を敬え。三宝とは仏・法・僧なり。（略）其れ三宝に歸りまつらざるは、何をもつてか枉れるを直さん。」（『真宗聖典』九六三頁）と『憲法十七条』に定められました。

「仏教を敬い、その規準を基に生活しなさい」。この聖徳太子のお示しは、現代の国家や社会、私たち一人ひとりとつても必要なことでしょう。

また、この皈依三宝精神を具体化した生活が、念仏申す生活、すなわち朝夕のお勤めや仏法聴聞を優先する真宗門徒の生活でありましょう。

聖徳太子は日本の国のお釈迦様
表紙題字下の言葉は、「皇太子聖徳奉讃」の左記の前二行です。『真宗大谷派勤行集（赤本）』121頁にあります。

和国の教主聖徳皇
広大恩徳謝しがたし
一心に帰命したてまつり
奉讃不退ならしめよ

「日本には聖徳太子が、仏教を伝え弘めてくださいました。聖徳太子は日本の国のお釈迦様。その広大な恩徳はいくら感謝しても感謝し尽くせません。」



聖徳太子様に一心に帰命したてまつります。

どうか阿弥陀様、聖徳太子を奉讃する心が退転しないようにしてください」と。

親鸞聖人は、この心で聖徳太子像を傍らに奉安していたと伝えられています。

七高僧と聖徳太子

真宗寺院の内陣余間には、七高僧と共に聖徳太子が奉安されています。

七高僧は、浄土真宗を親鸞聖人にまで伝えたインド中国日本の七人の僧侶です。

これは、浄土真宗の信心の伝統を表しています。

聖徳太子像は、髪は美豆良に結い豪族の着る衣装の上に僧侶の着る二十五条袈裟と柄香炉という仏具を手になしています。茨城県水戸市にある真宗大谷派善重寺の聖徳太子像は、左手に柄香炉を右手には豪族が手にした笏（表紙の太子肖像参照）を持っています。

この像は一般的には「聖徳太子孝養像」と呼ばれています。

しかしそのお姿からすると親孝行のお姿というよりも、在家人活のまま仏道を歩まれた聖徳太子の人生を象徴するお姿であると言えましょう。

真宗宗歌二番で詠われている「六字のみ名をとなえつつ世のなりわいにいそしまん」というお姿です。

この聖徳太子像は、浄土真宗の生活を表しています。

聖徳太子の夢告

左図は親鸞聖人の生涯を絵巻物にした『御絵伝』第四図の一



六角堂での観世音菩薩の夢告

部分です。親鸞聖人の人生を決定づける出来事が描かれた場面です。

左側に横になり眠っている親鸞聖人、右側に夢の中でお告げを受けている親鸞聖人が描かれています。

「法然上人の説く教えは、これまでのお教とはまったく異なる無戒の仏教、肉食妻帯の在家人生活のまま歩む仏道です。親鸞よ。その道を歩みなさい」と。

この夢告は、比叡山での戒律をまもり厳しい修行による仏道に挫折した親鸞聖人に、進むべき道を示してくれました。

親世音菩薩は、聖徳太子となつて日本に現れたと当時は思われていましたから、親鸞聖人にとつてこの夢告は聖徳太子からのものでした。

親鸞聖人は、この新しい仏道を歩むご自身の立場を「非僧非俗」と、後に『教行信証』に記しています。

花まつり

4月18日(日)14時〜16時

お勤めと法話を本堂とオンライン(ズーム)で行います。